

報道関係者各位
プレスリリース

株式会社タムラプランニング&オペレーティング

2030 年に求められる高齢者住宅の提案

この度、タムラプランニング・アライアンス（以下、T・アライアンス）は、平成 29 年 7 月 1 日『スマートエルダーリビング・モデルプロジェクト vision2030』報告書を発行いたしました。2030 年に求められる高齢者住宅はどうあるべきかを多方面から議論し、報告書としてまとめたものです。

当プロジェクトには T・アライアンス加盟企業 29 社が参加、「食事」、「入浴・トイレ」、「リハビリ」、「認知症ケア」、「ターミナルケア」、「ハード環境」、「エネルギー」の 7 つの分科会で構成され、約 1 年間（平成 28 年 7 月～平成 29 年 6 月）に渡り、議論を続け報告書として取り纏めました。

高齢者住宅の現状並びに課題等を省みた上で、2030 年に入居対象者の大半を占める多様な価値観やライフスタイルをもった団塊の世代の入居を考慮し、今後、求められる高齢者住宅のあり方を提案したものです。特に、高齢者住宅の運営において、これから益々重要度を増していく『マンパワー不足』、『重度ケア』、『社会参加』の 3 テーマを議論の中心に据え、既存の制度や考え方に捉われない新しい 2030 年のモデルを盛り込みました（詳しくは 2 ページをご覧ください）。

本提案によって、高齢者住宅事業に関わる様々な事業者の方々が、これからの高齢者住宅を考える契機となり、また、入居者の方が安心して充実した暮らしのできる高齢者住宅が供給されていくことを切に望みます。

【記者発表のお知らせ】

上記の内容について、平成 29 年 7 月 13 日(木)に記者発表を行います。当日は、各分科会のリーダーより、2030 年に向けた提案内容の説明、報告書の配布等を行います。詳細は下記の通りです。ご参加を希望される方は事務局までご連絡ください。

・日時：平成 29 年 7 月 13 日(木)、13:00 開場(1 時間ほど)

・場所：ちよだプラットフォームスクウェア(本館)会議室 401 号室

(住所：東京都千代田区神田錦町 3-21/ TEL:03-3233-1511/ アクセス <http://www.yamori.jp/access/>)

◆本件に関するお問い合わせ先=====

タムラプランニング・アライアンス事務局/株式会社タムラプランニング&オペレーティング

TEL : 03-3292-1107 FAX : 03-3292-3288 担当/甲斐

◆会社概要=====

会社名 : 株式会社タムラプランニング&オペレーティング

所在地 : 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 1-13

代表者 : 代表取締役 田村明孝

設立 : 1987 年 9 月 U R L : <http://www.tamurakikaku.co.jp/>

●タムラプランニング・アライアンス（T・アライアンス）

組織	弊社（㈱タムラプランニング&オペレーティング）がコーディネーターを務め、シニア業界に独自の強みを持つ専門企業 57 社で構成する組織。
目的	高齢者住宅の新規開設検討者及び既存事業者へ、ハード・ソフト両面において優良な高齢者住宅を提案する。
特徴	設計からアクティビティ、人材教育まで、20 以上の事業分野を網羅し、事業計画の立案・運営からリニューアルまで一連の業務を支援する。

●スマートエルダーリビング・モデルプロジェクト

概要	2025 年～2030 年を見据えた高齢者住宅を提案するプロジェクト。本リリースは第 2 回モデルプロジェクトに該当。 <ul style="list-style-type: none"> 第 1 回モデルプロジェクト：平成 25 年 4 月～平成 26 年 11 月（参加企業：32 社） 第 2 回モデルプロジェクト：平成 28 年 7 月～平成 29 年 6 月（参加企業：29 社）
構成	7 つの分科会で構成。第 2 回は「食事」、「入浴・トイレ」、「リハビリ」、「認知症ケア」、「ターミナルケア」、「ハード環境」、「エネルギー」の 7 分科会。

●高齢者住宅の現状と課題（3 大テーマ）等

現状	効率や管理に重きを置く事業者目線の運営、選択の自由が少ないサービス、物を持ち込めない・縦に長い居室、高齢者住宅毎に異なる認知症ケアやターミナルケアの対応、医療体制等、多くの課題を抱えています。
3 大テーマ	「マンパワー不足」：働き手の不足・慢性的不足の問題。ロボット、IT の導入。 「重度ケア」：認知症と看取りケアの提供。医療との連携。 「社会参加」：自己決定を尊重し、自らが積極的に社会参加を目指す。

●2030 年に求められる高齢者住宅（7 分科会の提案）

- ◆食事「入居者が選ぶ、自由な食事スタイル」 ◆入浴・トイレ「浴室・トイレのキーワードは可変性」
- ◆リハビリ：「それぞれのペースで目指す、リ・クリエーション」
- ◆認知症ケア：「認知症があっても楽しく暮らし続けられる高齢者住宅」
- ◆ターミナルケア：「思い通りのターミナル」 ◆ハード環境「建築が暮らしと環境をたすける」
- ◆エネルギー：「再生可能エネルギーで創エネ」

入居者目線、社会との繋がり等	食事の時間、内容、場所等を自由に選択できる環境づくり。 高齢者住宅へ入居後も、家族や地域とのつながりを保ち、これまでの暮らしを継続する。 要介護度の重度化や認知症に関わらず外出の機会を持つ。自立支援サポート機器の導入等。
スタッフの負担軽減	入居者のペースを大事に自立を促し、できる事は入居者自身が行う。 必要に応じ居室へのリフトの取り付け、可変性のある浴室・トイレの設置。 早い段階からの認知症予防、医療や専門職のサポート体制、生活・身体データの自動取得等。
暮らしを営む居室	キッチンや浴室、トイレ等を完備し、趣味の持ち物や愛着のある家具等を持ち込んだり、家族を呼んだりできるよう、十分な面積（35.0 ㎡）・プライベート空間を確保する。 入居者の生活導線を考慮し、居室の形はスクエアに近くする。

※「高齢者住宅」とは、民間企業、医療法人、社会福祉法人等が推進する有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅等を指します。